

(うさうこる)

その城を預かり守りし役。ゐすくわん(留守官)ゐすしよく(留守職)参照。大寶金車駕巡幸及_レ還、百官五位以上辭迎。留守者

すゝてん留守御殿〔名〕留守の御殿。主人の不在なる屋敷。一茶、鶯の野にして鳴くや留守御殿」

職)を見よ。東鑑「河越三郎重員(カシヅ)者、武藏國惣檢校職也。付二當職、四箇條有二掌事、近來悉廢訖、仍任例可二執行二之由、

るねさんすけんちく復興期建築(英

Renaissance architecture) [名] 西洋建

築の様式の一。第十五世紀の頃、伊太利

國フイレントエ(Florence)に勃興して、歐

羅巴全土に波及せり。舊來のゴチック化

せる様式を脱して、古代のクラシック様式

を復活せんことを目的とせしもの。その

復活は外形に止まりて、未だ精神に達す

るを得ざりしかども、各地に於て、それぞ

れ固有の特色を發揮したり。

るは流配(名)はる(配流)に同じ。

るはじか(露Rubikhaの訛) [名] 露西亞

國の衣服の一。

るび(英Ruby) [名] 活字の、最も小き

もの、即ち八號活字。振假名などに用ふ。

活版刷の振假名。目小きこと又、その

物。(俚語)

るびい紅玉(英Ruby) [名] 鑽こうは

うせき(紅寶石)に同じ。

るびい留比留(助數)るびい(留比)に同

るびちう(英Radium) [名] 化カリ

ウムに類似せる、稀有の金屬元素。軟く

して銀白色を呈し、空氣中に於て直ちに

酸化し、水に逢へば、直ちにこれを分解す

る等、化學的性質、頗る活潑なり。西曆一

八六〇年、ブンゼン(Bunsen)氏發見す

るび(き)ルビ附(名) 活字の印刷に、

振假名を附くこと。目ぶ(き) (指附)

に同じ。[活版職工の語]

るびにをん留毘尼苑流毘尼苑 [名] ろ

んびにをん(藍毘尼苑)に同じ。

るふ流布 [名] 世間に弘まること、又

世間に弘むること。流傳。傳播。[世

間に知れわたりであること。傾城反瀾香

「世間流布の重罪」

るふほん流布本 [名] 世間に弘まりて

ある本。珍本ならぬ書籍。

るぶらん(一)そおだはぶルブランの曹

達法(英Leblanc's soda process) [名]

「化」次條に同じ。

るぶらん(二)はぶルブラン法(英Leblanc's

process) [名] 「化」炭酸曹達を工業的に

製造する方法の一。食鹽を硫酸と熱して

硫酸ナトリウムを製し、これを石炭及び

石灰石の小塊と混じて熱し、炭酸ナトリ

ウム及び硫化カルシウムを生ぜしめ、こ

れを水にて抽出して得たる溶液を蒸發し

て、不純なる炭酸ナトリウム(曹達灰)を

得、これを更に湯に溶かして、その溶液を

放冷する時は、炭酸曹達を得。佛蘭西の

藥劑師ルブランの發明に係る。

るまた受 [名] 漢字の又(二)に、片假名

のルを重ねたる形なるよりいふ。また

(支)参照「漢字の旁(二)」の「殺」「股」

「役」などの字の右方にある父の字。ほこ

くり。

るんきん [名] 植いぬひは(大枇杷)に同

るんけつ [名] 胡亂のなる者。(俚語)

るめにや羅馬尼亞 [名] 地るうまにや

(羅馬尼亞)に同じ。

るもあめてんルモアア又點(英下

moine point) [名] 數るるじゅうしん

(類似中心)に同じ。

るもえ留萌 [名] 地アイヌ名ルモッ

べの訛。[大關國六郡の一。増毛(二)支

廳の管轄。[大關國留萌郡に在る村。日

本海に臨み、留萌川の河口に在り、鐵道留

萌線の終點たり。背後に數箇所石灰坑

あり。港としては良好ならねど、北風以

外の諸風に對して安全なるを以て、小樽

とらう流浪流牢 [名] さすらふること

さまよふこと。りうらう。流離。擧集抄こ

れまて流牢しいうらうることよ。太平記

「諸國流浪の世捨人」[浪人]に同じ。

るらうにん流浪人流牢人 [名] らうにん

るり琉璃琉璃(梵Vaidurya) [名]

「魏略に大秦国出赤白黒青綠黃紫縹十

種琉璃」とあり、佛經中にも、白琉璃(白

の名は見ゆれども、單に琉璃といへば、青

色のを指す。青色の寶石。佛經の中に、七

寶の一に數へらる。紺琉璃。じやうり淨

瑠璃(參照。漢譯の御盃、瓶子(二))は

紺瑠璃なり。和名「瑠璃」。青色而如

玉者。[唐の(二)瑠璃色]の略。梵語瑠

璃の經卷は、靈鷲山(靈鷲山)の曉の空より

も青し。目(動るりてう(瑠璃鳥)の略。

諸七部集。ちちめきの中でより出す瑠璃

回(纏)美しき青色を呈し、黃鐵礦、黃金色

の微點となりて散在せる接觸礦物。中央

亞細亞の石灰岩中に産し、裝飾に用ふ。

瑠璃の池 [名] 佛西方淨土にあり

て瑠璃にて成れりといふ池。唐物語

「玉の錦、庭に落ちたりて、極樂世界の

瑠璃の池も斯くやらんと覺えたり」

瑠璃の琴 [名] 佛瑠璃にて製したる

琴。香山(二)に住める大樹といふ緊那

羅(二)、佛前に來りて、これを彈きし

ひ、迦葉(二)尊者も、感じて、思はず舞

ひ出たりといふこと、大樹緊那羅王

所問經に見ゆ。樂器香山(二)大樹緊那羅

の瑠璃の琴にならず(て)管絃歌舞の

曲には、法性眞如の理を調ふと聞ゆ」

瑠璃の光も磨がら [名] 何事も、鍊

磨の功を積み、始めて光輝を發する

譬。(諺語)

瑠璃の水 [名] 梁の元帝の詩に「玉樹

瑠璃水」とあり。清く澄みたる水の形

容。拾遺瑠璃の水錦の林景色に心浮

き立つ秋の山川」

瑠璃も、玻璃も、照せば分る [名] 一

見したるのみにては相異なる所なきが

如きたる物も、然るべき方法を以てす

れば、眞價の優劣は判明する譬。(諺語)

るりあげは瑠璃揚羽瑠璃揚羽 [名]

「動くたいま(黒瑠璃)に同じ。

るりいろ瑠璃色瑠璃色 [名] 紺色

の、光澤強くして美しきもの。紺碧。る

り。製(二)の色目の。濃き淺黃。

るりが瑠璃貝瑠璃貝 [名] (動)腹足

類に屬する軟體動物。殻は圓く、全部に

互りにて瑠璃色を呈す。太平洋に産す。

るりからん瑠璃唐草瑠璃唐草 [名]

「植るる(二)瑠璃草」に同じ。

るりくさ瑠璃草瑠璃草 [名] 「植るり

さ(瑠璃草)に同じきか。題集るりくさ

の葉におく露の玉をさへ物思ふ君は涙と

ぞ見る」

るりくわうによらい瑠璃光如來瑠璃

光如來 [名] 「佛」やくしによらい(藥師如

來)に同じ。

るりくわんおん瑠璃觀音瑠璃觀音

「名」佛三十三觀音の一。一瓣の蓮華

に乘りて水に浮び、手に香爐を持てる姿

なるもの。

るりこん瑠璃紺瑠璃紺 [名] こんるり

(紺瑠璃)に同じ。

るりさう瑠璃草瑠璃草 [名] 「植」紫草

(二)科に屬する多年生の草。茎は細長く

して地を匍ひ、長さ二尺内外に達す。葉

は互生し、全緣長楕圓形をなし、莖葉共

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

るりくわんおん

は、順次に税率を増加し、その標準以上は、税額を同一に据ゑおくもの。果進的累減法。(累加税に對して)

るおけんはふ 累減法 [名] [數] 『英 Sums of consecutive subtraction』累減 [名] 累減法。累減法。連減法。

るおん 類語 [名] 和歌文章などの中の語を選び出して、いろは順又は五十音順に排列し、檢出又は解釋に便せしめたるもの。『源氏類語』の如きこれなり。

るおん 累功 [名] 功績を累せぬること。

るおん 涙骨 [名] [醫] 『獨 Fühner-Bone』鼻骨の左右、眼窩の内側に位置する、左右一對の小骨。扁薄にして、長方形に近し。

るおん 涙痕 [名] 涙の流れたる痕跡。

るおん 挿茶 [名] ろあち(挿茶)に同じ。

るおん 累坐 [名] れんざ(連坐)に同じ。

るおん 壘塞・壘砦 [名] とりて。るゐ。堡壘。

るおん 累歳 [名] れんねん(連年)に同じ。

るおん 類想 [名] 詩歌など、類似的の著るゐさん 累算 [名] 累計の計算。

るおん 類纂 [名] 同種類又は離るべからざる關係あるものを、一つに編纂すること、又その編纂物。

るおん 壘山 [名] [地] ちてい(地堤)に同じ。

るおん 誄詞 [名] ろる(誄)に同じ。

るおん 誄詩 [名] 死者のために、その生前の功德をたたふる詩。

るおん 類字 [名] 類似的の文字。同種類。の文字。

るおん 類似 [名] 似寄りであること。にるおん 累次 [名] ろなり(なり)につくこと、又、累なつづくこと。

法令の解釋方法の一。法令に明文ある事項より推して、明文なき事項を類推して解釋するもの。類推解釋(文理解釋に對して)。

るおん 累加 [名] 累加法 [名] 累加。るおん 累減 [名] 累減法 [名] 累減。るおん 累進 [名] 累進法 [名] 累進。

るおん 累功 [名] 功績を累せぬこと。

るおん 累坐 [名] れんざ(連坐)に同じ。

るおん 累歳 [名] れんねん(連年)に同じ。

るおん 累算 [名] 累計の計算。

るおん 累纂 [名] 同種類又は離るべからざる關係あるものを、一つに編纂すること、又その編纂物。

るおん 累山 [名] [地] ちてい(地堤)に同じ。

るおん 累詞 [名] ろる(誄)に同じ。

るおん 累詩 [名] 死者のために、その生前の功德をたたふる詩。

るおん 累字 [名] 類似的の文字。同種類。の文字。

るおん 累似 [名] 似寄りであること。にるおん 累次 [名] ろなり(なり)につくこと、又、累なつづくこと。

るおん 累功 [名] 功績を累せぬこと。

るおん 累坐 [名] れんざ(連坐)に同じ。

るおん 累歳 [名] れんねん(連年)に同じ。

るおん 累算 [名] 累計の計算。

るおん 累纂 [名] 同種類又は離るべからざる關係あるものを、一つに編纂すること、又その編纂物。

るおん 累加 [名] 累加法 [名] 累加。るおん 累減 [名] 累減法 [名] 累減。るおん 累進 [名] 累進法 [名] 累進。

るおん 累功 [名] 功績を累せぬこと。

るおん 累坐 [名] れんざ(連坐)に同じ。

るおん 累歳 [名] れんねん(連年)に同じ。

るおん 累算 [名] 累計の計算。

るおん 累纂 [名] 同種類又は離るべからざる關係あるものを、一つに編纂すること、又その編纂物。

るおん 累山 [名] [地] ちてい(地堤)に同じ。

るおん 累詞 [名] ろる(誄)に同じ。

るおん 累詩 [名] 死者のために、その生前の功德をたたふる詩。

るおん 累字 [名] 類似的の文字。同種類。の文字。

るおん 累似 [名] 似寄りであること。にるおん 累次 [名] ろなり(なり)につくこと、又、累なつづくこと。

るおん 累功 [名] 功績を累せぬこと。

るおん 累坐 [名] れんざ(連坐)に同じ。

るおん 累歳 [名] れんねん(連年)に同じ。

るおん 累算 [名] 累計の計算。

るおん 累纂 [名] 同種類又は離るべからざる關係あるものを、一つに編纂すること、又その編纂物。

るおん 累山 [名] [地] ちてい(地堤)に同じ。

記せるもの。八卷。里村昌球の著。一名、大名寄(附註)。

るおん 類症 [名] ろる(類)に同じ。

るおん 類語 [名] 和歌文章などの中の語を選び出して、いろは順又は五十音順に排列し、檢出又は解釋に便せしめたるもの。『源氏類語』の如きこれなり。

るおん 累功 [名] 功績を累せぬこと。

るおん 累坐 [名] れんざ(連坐)に同じ。

るおん 累歳 [名] れんねん(連年)に同じ。

るおん 累算 [名] 累計の計算。

るおん 累纂 [名] 同種類又は離るべからざる關係あるものを、一つに編纂すること、又その編纂物。

るおん 累山 [名] [地] ちてい(地堤)に同じ。

るおん 累詞 [名] ろる(誄)に同じ。

るおん 累詩 [名] 死者のために、その生前の功德をたたふる詩。

るおん 累字 [名] 類似的の文字。同種類。の文字。

るおん 累似 [名] 似寄りであること。にるおん 累次 [名] ろなり(なり)につくこと、又、累なつづくこと。

るおん 累功 [名] 功績を累せぬこと。

るおん 累坐 [名] れんざ(連坐)に同じ。

るおん 累歳 [名] れんねん(連年)に同じ。

るおん 累算 [名] 累計の計算。